

第二部

2 漢字の部品調べ

漢字の八割から九割までが形声文字だと申しあげました。つまり、これに会意文字を加えた大部分の漢字が、象形文字と指事文字の組み合わせでできているということです。

このように、漢字の大部分をしめる形声文字と会意文字は、いくつかの部品が組み合わさられているのですから、わずかの部品を学べば、たくさんの漢字は、ひとりでにわかることになります。これが合理的な学び方というわけです。

これから、この部品(これをむかしから部首と呼んでいます。)を、
 (1) 人体 (2) 服装 (3) 器具・住居 (4) 動物・植物 (5) 自然
 に分けて調べてみることにします。

(1) 人体に関する部品

目に関係ある字

見 二年 ケン みる

見は「ひとあし」といいますが、人という字の変形で、意味は人です。人は目でものを
 見るので、人と目とで「みる」という意味を表わしました。

看

カン

看は、手の変形です。手を目の上にやるのは、ものをよく見ようとするときのしぐさで

すから、「よくみる」という意味になります。看病・看護・看板など使います。

視

四年 シ

視は、神のしるしの部品です。神さまが見るように、「ものを正しくはっきり見る」意味の

字です。視察など使います。

相

四年 ソウ ショウ あい

「木に登って見る」「上から見てとりしめる」こと。①「たすける」や、②「目で見たようす」

の意味に使われます。①のときはショウ、首相、文相。②のときはソウ、人相、手相。

省

五年 セイ ショウ かえりみる はぶく

小さいことにもよく目をつけること。つまり、「細かいことにも気をつける」こと。反省、そ

の結果は、不要なものは「はぶく」。省略

口に関係のある字

兄

三年 ケイ キョウ あに

兄は口のすぐれた人。「先に生まれた人」の意味。

古

二年 ユ ふるい

古は十人の口に「いいふるされたこと」という意味の字。

名 二年 メイ
ミョウ
な

夕は。月が山から出かかった「ゆうがた」の意味の字です。夕方は顔がはっきりしないので、「な」を呼び合うということで、夕と口で、「な」を表わしたもの。

夕 二年 セキ
ゆう

問 四年 モン
どう

 門の間から、 を開いて「声をかける」と。

唱 四年 ショウ
となえる

 昌(ショウ)は日のように輝かしく、美しいこと。 「口から声を美しく出す」こと。合唱・唱歌

和 三年 ワ
やわらぐ

 禾は稲。稲がたくさん取れて口にはいれば「平和」で、心は「やわらぎ」ます。

また、稲の豊かな国、つまり平和の国である日本の意味に使います。和風・和歌

今「集まる」意味の部首

合 二年 ゴウ
あう

たくさんの が集まって、「一致する」という意味で、「ぴたりとあう」こと。同も合と同じく、「ぴたりと一致する」という意味で、「おなじ」こと。  で合同となります。

同 三年 ドウ
おなじ

会 二年 カイ
えあう

「人がたくさん集まりあう」こと。合と同じでき方ですが、会は、いまは「集まり」の意味に

使います。

令 五年 レイ

命 四年 メイ
ミョウ
いのち

 は、天子の与えるしるし。「人々を集めて、天子の与える書きつけ」が令で、これを口でいうのが命です。しかし、いまでは、ひと口に命令とって区別していません。

「命」という意味は、天命ということばがもとです。人の命は天の命(いいつけ)で、人の力ではどうにもならないという意味で作られたことばです。

尸と司 とは人の形

后 六年 ゴウ

司 四年 シ

 は を反対にした形。 は口から命令を出す人、つまり君主。 は、君主の命を受けて、これを人民に伝える人、つまり司令官。どちらも人 と口 とでできた字です。後の音は口と同じですが、合の音もやはり口です。

包 四年 ホウ
つつむ

抱 四年 ホウ
だく

 は で、人がものをだきかかえる形。包は で、子どもが腹の中につつまれている形です。 がついて、「だく」意味になります。

飽

ホウ
あきる

●
食べ物で^あの形になるのは、「あきる」ほど食べたから。

砲

ホウ

砲は「石ゆみ」で、石を包んで、はじきとばす武器です。いちばん大きな力のある武器

ですから、大砲ともいいました。いまでは、火薬で鉄の^{だんがん}弾丸を打つ武器をいいます。

匕には二つの使い方がある

匕には、^ヒと^匕とあります。^ヒは生きている人の形ですが、^匕は死んだ人の形です。音はヒです。

比

五年
ヒ
くらべる

人がふたりいると、だれだって「くらべ」たくなります。

北

二年
ホク
きた

●
北ですから、「そむける」という意味の字です。人は、お日さまのほうへ向きますから、

^{せなか}背中のほうが「きた」です。

背

ハイ
せ

●
月は肉をかんたんにした形。からだのなまえはたいていこの月がつきます。北は「せなか」

の形でもあります。ハイの音はヒが表わします。ヒ (hi) には、ハイとヒの発音があります。

死

三年
シ
しぬ

●
歹はばらばらになった骨のこと。骨の上下の画を取ると、^冎になりますね。匕は^匕です、人が倒れて骨になるのが死です。音のシはヒのなまりです。^{えど}江戸っ子のような

化

三年
カケ
ばける

●
この匕も^匕です。人が死ぬこと。人が死ぬと「ばける」ということになります。これは、たいへんな「変わり」方ですから。「変化」という意味にも使います。

𦵏 (𦵏)は「わずか」という意味

残

四年
ザン
のこる

●
𦵏(ザン)は「わずか」という意味。鳥や獣^{けもの}が食べ残したわずかの骨の「のこり」のこと。

浅

五年
セン
あさい

●
水がわずかしかないので、「あさい」という意味。

錢

五年
セン
ぜに

●
わずかなお金です。円の百分の一です。

箋

セン

●
紙のなかったむかしは、木や竹の札に字を書きましたので、書きものに関係のあるものには、木と竹がよく使われます。書き物に

使う小さな紙が箋です。便箋・通信箋

賤

セン
いやしい

●
貝は財貨の意味ですから、財貨の少ない「身分の低い人」を意味します。

手の意味の部首は多い

手の意味の部首は、実にたくさんあります。又・㇀・㇁・ナ・寸・

𠂇・𠂈から、又、手に棒を持った形の𠂉まで、たくさんありますが、たがいに似た形も多いので、覚えるのにむずかしいことはありません。

受

三年
ジュ
うける

●
𠂇と又はどちらも手です。人の手()から、自分の手(又)に、ものを「うけ」取ること

です。

取

三年
シュ
とる

むかし、中国では、戦場で敵を倒すと、首の代わりに耳を取ったので、●
●
耳と又で、「とる」意味を表わしたのだそうです。首はいくつでも持てませんが、耳ならいくつも持てます。音は手です。

及

三年
キュウ
およぶ

𠂉は●
●
で、人の形です。𠂉の部首も多く使われます。前に行く人を後ろから追

「および」、つかまえることです。追及

及のつく字

吸

キュウ
すう

汲

キュウ
くむ

扱

あつかう

級

三年
キュウ

急

三年
キュウ
いそぐ

㇀と㇁とは使い方が違う

㇀は●
●
で、㇁は●
●
です。どちらも手の形ですが、新字体では、物を持つときは㇁、持たないときは㇀と、使い分けています。

雪

二年
セツ
ゆき

及は、「つかまえる」「ひきよせる」意味があります。

●
口でひきよせることですから、「すう」という意味です。呼吸

●
水をひきよせることですから「くむ」ことです。

●
ひきよせて、ものを身近に手で「あつかう」ことです。

織物を織るときに、扱いやすいように、糸を身近に順序よくならべておくことです。「順序」の意味です。また、しるしをつけておくと扱いやすいので、「しるし」の意味もあります。

㇀は●
●
で、又(●
●
)の変形です。だから、魚は及と同じことです。人を追及するとき

の心ですから、「いそぐ」ことです。

手の上に載せられる雨という意味です。つまり「ゆき」を意味しているわけです。

筆 五年 ヒツ
ふで

竹ととでできています。聿はで、「ふで」の形です。聿は、ふでを手に持っ

た形です。ふでは軸が竹でできているので、竹を加えました。

書 二年 ショ
かく

白は紙だと考えてください。そうすれば、書

が「かく」意味だということはすぐわかるでしょ

右と左となぜ書き順がちがうか

ナは手のしるしです。しかし、右は「ノ一」と書き、左は「一ノ」と書きます。なぜでしょうか。いまは同じ形をしていますが、むかしはちがっていたのです。又は (目) で、「みぎ手」の形、ナは (手) で、「ひだり手」の形だったのです。又は と書き、ナは と書いたわけです。右は ですから、右と書き、右となったのです。

右 一年 ユウ
ウ
みぎ

ナが、ナ→又で、右手の形です。食事のとき、口へ運ぶ手です。

左 一年 サ
ひだり

工は工作のときに使うじょうぎです。えんぴつを右手に持ちますから、じょうぎを持つ手

は、「ひだり」手です。

差 四年 サ
さす

左手は右手に比べて働きがちがう。差は、美しさに「ちがい」のあること。

友 二年 ユウ
とも

手と手で握手、つまり、仲のよい「とも」の意味を表わしています。音は又です。

有 四年 ユウ
ウ
ある

このナも又です。ですから、音も書き順も又と同じです。月は肉です。「肉を手に持っ

つ」こと、つまり、「肉がある」ことです。いまは、「もつ(所有)」と「ある(有毒)」と両方に使われます。

欠は口を大きくあけた形

欠はで、口を大きくあけている形

吹 スイ
ふく

口から息を「ふき」出すこと。いまは、「笛を吹く」「風が吹く」とも使います。

歌 三年 カ
うた
うたう

下は、おさえられていた息がすうっと出てきた形。のどにたんがからまっているとき、カ

可 六年 カ

一とはくと、通りがよくなります。それで、「良い」という意味に使います。歌は、口を大きく

開いて、「よい声を出す」ことです。

歡 六年 カン

権はカンという音を表わす部首。「うれしさに思わず声を上げる」ことです。歡喜とはそ

ういう喜びです。おさえきれないような大きな喜びです。

次 三年 ジシツ

二(ニ)と欠です。「あああ、いやんなっちゃった」とあくびして、二番めでまんぞくしている状態です。二は一の「つぎ」です。

女は手にもものを持つ形

女は𠂇で、手にもものを持った形です。音はボク。

牧 五年 ボクマキ

女は、手にむちを持った形です。「牛をかう」ことです。

教 三年 キョウオシエ

老は「コウ」という音を表わす部首です。考、孝、老。先生がむちを振り振り、子どもに

「おあしえ」ていることを表わした字です。

政 五年 セイショウまつりごと

悪者をこらしめて、世の中を正しくおさめるのが、「政治」です。

改 四年 カイあらため

己は「自己」の意味ですが、音はキで、細のばあいと同じように、キとカイとあります。まちがった自己の心をむちうって、よい心に「あらためる」ことです。

敗 五年 ハイやぶれる

貝をたたきこわすことで、「やぶれる」という意味です。

故 六年 コ

古いものをたたきこわすことですが、いまでは、「古い」意味と、「こわす」「こわれる」意

味と、分けて使われています。①古=故郷(ふるさと)②女=故障

救 五年 キュウすくう

困っている人の求めに応じて悪者をこらして「すくう」こと。

子どもらしいおもしろい考え

新しい漢字は、新しい見方をしなければ、記憶の手がかりにはなりません。つぎの字は、子どもたちが考え出した説明です。

数 三年 スウかずあぞえる

米と女と女でできています。女中さんが、手にますを持って、お米を一ぱい、二はいと「かぞえる」のだというのです。女は、おかあさんに見たててもよいですね。

散 四年 サンちる

散は、肉をたたいて、「こなごなにし」、食べよくすることです。𠂇はサンの音を表わすしるしだというのです。なるほど、そうも見えます。

女と欠とをよくとりちがえて書く人があります。意味がまるつきりちがうのですから、これでは困ります。たとえば、

飲 四年 インのむ

を飲と書いたのでは、「大きな口をあけて、食べ物を飲みこむ」意味には、どうしてもなりません。「食べ物をたたく」ことになってしまいます。

扌と牜を書きちがえやすい

牜は牛へんで、扌は手へんです。手と牛と書きちがえやすいように、扌と牜も書きちがえやすいようです。しかし、意味をよく考えたら、書きちがえるはずはありません。

指 三年 シ ユビ
 旨の日は甘の変形。「あまい」とか、「うまい」とかいう意味の字です。音はヒ(シはヒの

なまり、死と同じ)です。うまいものは、「ゆび」でつつまんでしまいます。手と旨とで「ゆび」を表わしたのは、うまい思いつきですね。

脂 シ
 「うまい肉」という意味の字です。「あぶら

ぎった肉」がおいしいので、「あぶら肉」という意味になります。いまは「脂肪」といって、「あぶら」の意味に使います。

持 三年 シ モツ
 音はジで、「手に物をもつ」という意味の字です。

寸 スン
 𠂇で、又と・でできた字です。手首から、

ちょっと上がったところにある脈はくを表わした指事文字です。むかしは、手首から脈はくまでの長さを「一寸」といい、長さの単位にしていました。部首としては、「基準」とか、「標準」の意味に使われます。

導 五年 ドウ ミチびく

基準に従って「道案内する」ことです。

寺 五年 ジ テラ

士と寸です。世の中の基準を決めるところが寺です。いまの「政府」とか。「役所」とかに

あたることばです。むかし、役所の建物を、「〇〇寺」と呼んだのですが、のちになって、「おてら」のりっぱな建物をも「〇〇寺」と呼ぶようになり、いまでは、「てら」の意味になってしまいました。

侍 ジ サムらい

寺の人、つまり「役人」のこと。「さむらい」です。

時 五年 ジ トキ

むかしは、日の動きで「とき」を計りました。

日は、ときを計る基準(寸)なので、日と寺で、「とき」を表わしたものです。子供には、お寺で、日の出、日の入りに、明け六つ、暮れ六つの鐘を鳴らして、「とき」を知らせた、ということで、理解させたほうがわかりやすいと思います。

爪は爪で「手」の意味

採 六年 サイ トル

采は、采と木で、「木をつまむ」こと。のちに、さらに扌がつかしました。

菜 四年 サイ ナ

艹は𦰇で、草のことです。「つみ取って食べる草」が采です。

拾 四年 シュウ ジュウ ひろう
 拾は「集める」こと。拾は、手でかき集める」ことです。両手を使うことから、両手の指の数の十を表わすようになりました。音のシュウは、手と口とでできました。

技 五年 ギ
 支は十と又で、「たくさんのを一手にまとめる」ことで、また、反対に「一つの手から、たくさんに分かれ出る」意味にも使います。支点は前者、支店は後者の意味です。技は、いろいろなものをとり扱う手わざ、腕前」という意味です。

枝 シ えだ
 この支は、「一つのものから、たくさん分かれ出る」意味の支です。一本の幹から分かれ出た「えだ」です。

拝 六年 ハイ おがむ
 むかしの拜という字が、拜から拜となり、いまの字形になりました。丁は、むかしの下という字です。「両手をそろえて下げる」ことで、「あいさつ」や「おがむ」ときの動作です。

六は両手の形です

両手をそろえた形の𠄎が𠄎となり、六となりました。音は、キョウまたはクで、ときには、コウとかキョとなまることもあります。

共 四年 キョウ とも
 共。ふたりで𠄎をさし上げている形を表わしています。「いっしょに」という意味です。

供 六年 キョウ ク とも そなえる
 共に人がついて、「いっしょに仕事をする人」という意味になります。このことから、「手助け」「けらい」「おとも」などの意味に使われます。また、共と同じく、「さし出す」「おそなえする」意味にも使われます。

具 四年 グ
 具。道具を両手でささげる形を表わした字で、共や供と同じように。「おそなえをする」意味と、「道具」という意味とあります。

興 五年 キョウ コウ おこる
 興の古い形は𠄎で、𠄎と同じように、両手の形を表わしたものです。興は、だから「四人の手」です。四人が共同して、仕事をすることで、みなが力を合わせれば、仕事はしぜんときかんになります。そこで、「おおぜい いっしょになって、仕事をさかんにする」意味に使います。興行・興起

止・足は足のしるし

止 三年 シ とまる
 止(止)は、足のうらを表わしたものです。人のとどまり立つところだというので、「とま

る」意味に使います。部首としては、止の形で使われることが多く、足のしるしとして使います。

歩 二年 ホフ
あるく
あゆむ ●少はもと少で、止の反対の止です。右足の形です。ですから歩は、右足の前に左足を出した形で、「あるく」ことを表わしています

足 一年 ソク
あし
たひる 口と止でできています。口はひざがしらの丸い部分を表わしています。「ひざがしらから足のうらまで」を足というのです。ひざから上は腿で、足ではないわけですが、いまでは、あまり区別をしません。

走 二年 ソウ
はしる ●土は「つち」ではなく土で、人のはしる形を表わしたものです。しかし、土だけでは、●つちと同じ形になりますので、区別するために、●足をつけました。●歩と走をよくまちがえ、●歩や●走と書く人がよくありますが、成り立ちとその意味を考えれば、まちがうことはありません。

𠂔は両足をそろえた形

𠂔は「発がしら」と呼ばれています。発という字の頭に使われているからです。この形は、祭という部首に似ているのでよくとりちがえられます。しかし、成り立ちを知ったら、絶対にまちがえなくなります。

発 三年 ハツ
ホツ

𠂔は𠂔で、両足をそろえた形です。二に●両足をそろえたのは、これから「出かける」ことを意味しています。●凡は、反対の反り返った形で、「反撥」とか、「別れる」意味を表わしています。音はハツまたはハチです。数字の八もこれです。

登 四年 トウ
ト
のぼる

●両足をそろえて、一方の足を前に踏み出せば発となり、●上に踏み出せば登になります。●高いところに「のぼる」のが登です。音は豆です

祭 四年 サイ
まつる

●祭は、●肉を●右手に持った形です。示は、二(天)から、神さまがいろいろの現象を地上に下して、神の意志を「示す」という意味の字です。部首としては「神さま」の意味に使います。祭は、「神さまに肉をお供えする」ことを表わした字で、「神をまつる」ことです。この成り立ちがわかれば、よくあるような、祭・祭というような字は書かなくなります。

また、𠂔・登という字もなくなります。

行は道のしるし

行 二年 コウ・ギョウ
アン・いく
おこなう
ゆく

𠂔→𠂔→行 この字は道路の四つかどを表わした字です。道路はどの歩いていくところですから、「いく」という意味を表わしました。また、「人のおこな

い」という意味にも使います。

術 五年 ジュツ
 行と求^{ジュツ}でできた字です。行のもとの意味の道という意味に使います。「敵に勝つ道はこれだけしかない」というように。道は、「やり方」「方法」という意味にも使います。それで、術は「方法」という意味に使います。武術

衛 五年 エイ
 行と韋^{エイ}でできています。韋は止の変形の^五とその反対の^四でできています。足の向きが反対ですから、「すれちがう」、または「ちがう」意味を持った部首として使われます。衛は、「道を行ったり来たりする」ことで、パトロールの意味です。人々の「安全を守る」ことです。韋の音はエイまたはイ。護衛

韋のついた字

緯 イ
 織物の「横糸」のことです。どうしてか、わかるでしょう。横糸は縦糸(経)に対して、行ったり来たりして織られているからです。地図で、南北を縦に結ぶ経線に対して、東西に平行に引かれた線を緯線というのは、この横糸の意味です。

偉 イ えらい
 この韋は、「ちがう」意味に使われています。「ふつうの人とちがった人」という意味で、

「えらい人」をいいます。

違 イ ちがう
 辵は、「道を歩いていく」意味の部首ですから、「すれちがう」「行きちがう」という意味に使います。いまは、「道をまちがえる」というように、ものごとが「ちがう」という意味に使われます。

辵は道と足とでできている

辵の古い形は、**辵**です。辵は、彳の変形で、行の省略された形です。つまり、**辵**「みち」の意味を表わしています。辵は足の意味を表わしています。だから、辵は、「道を歩いていく」意味の部首です。

返 三年 ヘン かえす
 反は「ものの裏^{うら}がわに手(又)を入れて、ひっくりかえす」ことです。「反対」というように使います。返は、「いま来た道をもどる」ことですが、借りたものを「かえす」というばあ

いにも使います。ヘンの音は、ハンの変化したものです。

運 三年 ウン はこぶ
 軍は**軍**で、「軍隊」という意味の字です。軍隊は、武器や食料を車に積んで、それをまん中にして行軍するので、車を囲んだ形で、これを表わしました。これに辵が着くと、

軍 五年 グン

武器や食料を「はこぶ」意味になります。運^{ウン}の音は軍gunのgが取れてウンとなったものです。

近 三年 キン ちかい
斤^{キン}は僅^{キン}(わずか)の意味。道をわずか歩いただけで行けるところは「ちかい」ところです。

遠 三年 エン オン とおい
袁^{エン}は延^{エン}(ながい)の意味。道を長いこと歩いていくところは「とおい」ところです。

迷 五年 メイ まよう
米^{マイ}は、「八方に分かれる道」の形に似ていますね。こんなに分かれている道では、どの道を行ったらよいのか、だれだって「まよう」でしょう。

進 三年 シン すすむ
佳^{シン}は音を表わしています。意味は、二で、「道を歩いていく」ことです。彳を「シンニョウ」というのは、これが進^{シン}のニョウだからです。

退 六年 タイ しりぞく
艮^{ゲン}のもとの形は、𠂔^{ゲン}です。𠂔^{ゲン}は止^トの変形で、下向きの形です。だから𠂔^{ゲン}は、日が下に向かって「しりぞく」ことを表わしています。退^{タイ}は、進^{シン}の反対で、「家にもどる」こと。つまり、「しりぞく」意味の字です。

逆 六年 ギャク さからう
逆^{ギャク}は𠂔^{ゲン}で、人がさかさまになった形です。逆^{ギャク}は、「道を反対の方向に歩いていく」ことです。逆行

追 三年 ツイ おう
自^{ツイ}は𠂔^{ゲン}で、がけの形を表わした部首です。悪い人をおいかけて、がけに「おいつめる」意味を表わした字です。

辺 五年 へん
「刀^トをもって道を歩いていく」という意味の字です。そういうところは、「遠い未開の土地」です。または「国境」です。いつ、なにに襲われるかわからないからです。辺地・辺境

速 四年 ソク はやい
束^{ソク}は木^キと〇^{マル}でできた字で、「木をたばねる」意味の字です。速^{ソク}は、「木を束ねて道を歩いていく」ことを表わしています。木を運ぶには、木をばらばらで運ぶよりも、束ねて運んだ方が、「はやい」わけです。

述 六年 ジュツ のべる
術^{ジュツ}と同じ成り立ちです。だから述^{ジュツ}は、道に従って歩いていく」という意味の字です。道というものは自分で作って自分で利用するものではなくて、むかしの人がつくったものを、利用するものです。そのように、自分で新しい意見を出さずに、むかしの人のことばを「のべ伝える」ことを述^{ジュツ}というようになりました。孔子が、「述べて作らず」といったのは、この意味です。

言のついた字は多い

討 六年 トウ うち
寸(169ページ)は、「基準」の意味の部首でした。「きまりに従って言いあう」のが「討議」「討論」です。こ0のばあい、相手の欠点をすばやく見抜いて、それを責めることがたいせつです。それで今は、「責める」意味から、「攻める」意味にも使います。討伐

詩 四年 シ
寺(170ページ)は、「基準を決める役所」のことで、ここでは「基準」の意味です。「言(ことば)の数やならべ方・使い方に決まった基準のある文」を詩というのです。五七調や、七五調の新体詩は詩ですが、決まりのない自由詩は、詩という名に反しています。

証 六年 ショウ
正は、一と止で、「止まるべき線」を表わした字です。もちろん、とまるべき線とは、「ただしい」ところです。証は、「正しいことを、言(ことば)で受け合うこと」です。

評 六年 ヒョウ
平は乎で、水面に浮かぶ水草の形を表わします。水草は、表面が「たいら」なので、「ひらたい」意味に使います。評は、どちらにもかたむかない、「公平な言(ことば)」のことです。だから、えこひいきのある批評は、批評といえないわけで

です。

す。

試 四年 シ シコころみる
式 四年 シキ

式は、弋と工でできています。弋は「目じるし」の意味の部首で、よく使われますから、覚えておいてください。式は、「工作するときの目じるし」、つまり、「手本」のことです。方式・格式などと使われます。試は、「方式に従って言うてみる」こと、「ためしてみる」という意味です。

認 六年 ニン ミとめる
忍 ニン シのぶ
忍は、刃(刃)と心で、「心を傷つけること」です。がまんでできないことでも、じっと耐え「しのぶ」ことです。「心にきざむ」こと。認は、「心の中でのろしいとみとめたうえで、のろしいと言う」ことです。これに対して、単純に、「のろしいと口で言う」のは許です。

語 三年 ゴ かたる
吾 ゴ われ
吾は、口で、「自分」という意味を表わしたものです。五はで、右手の形です。指の数の「いつつ」を表わしています。吾の音は五。語は、「吾(自分)がものを言う」ということで、人に「かたる」ことです。

誤 六年 ゴ あやまる
呉は、手ぶり身ぶりでおしゃべりしている形です。じっと見ていれば、いかにもそう見

とからできたことばです。漢字で表わせば、「真言」です。まことの人
はかならず成功します。

盛

セイ
ジョウ
さかり
もる

皿はで、「さら」の象形文字です。皿の
上にもものがいっぱい盛られていることを表わ

した字です。「もる」という意味と、「さかん」という意味とに使われま
す。